



いxil ラシッサ 可動間仕切り 引戸上吊方式 コーナータイプ

取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。

各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカー等の体内埋込型機器 (2)人工心肺等の生命維持用機器 (3)装着型の心電計等

▲注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

●上レールは出荷時に鴨居に仮固定されていますので、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。

■取付け上のお願い

●納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)

●運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。

●上レールを開梱状態で現場に置かないでください。ホコリ等が入り、吊車、ソフトモーションの作動不良の原因になります。

●造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。

●造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。

●造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。

●造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。

●現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。

●壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。

●本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は強度を要するため、必ず本体重量に耐える断面寸法のものを使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。

●本体重量は1枚あたり8～40kg程になりますので必ず構造計算を行い、取付け躯体に十分な強度を持たせてください。

●梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。

●枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がレールや戸車に付着し、作動不良の原因になります。

●本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)

●本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。

●組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、叩き込まないようにしてください。保持力低下の原因になります。

●各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。

●枠組立前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。

●枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。

●枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。

●枠は倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。

●本製品には、中縦枠は同梱されていません。小壁仕上げは現場にて対応してください。

●小壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。

●鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

●ガイドピンは『埋込みガイドピンの取付け』通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障がでる原因になります。

●埋込みガイドピン使用の場合、クッションフロアや弾性がある床には取付けしないでください。部品が浮いて開閉に支障をきたす原因になります。

●フラット下レールを固定する床(下地)は段差やすき間がないように仕上げてから固定してください。

●フラット下レールや、埋込み敷居を固定するねじを締めすぎないでください。レールが変形し、本体開閉不具合の原因になります。

●本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。

●吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

●製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直張りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のお願い

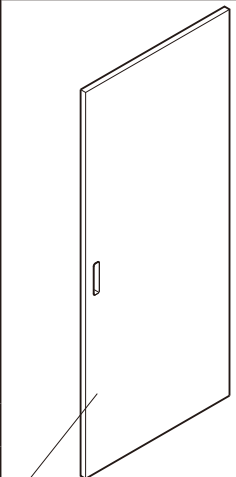
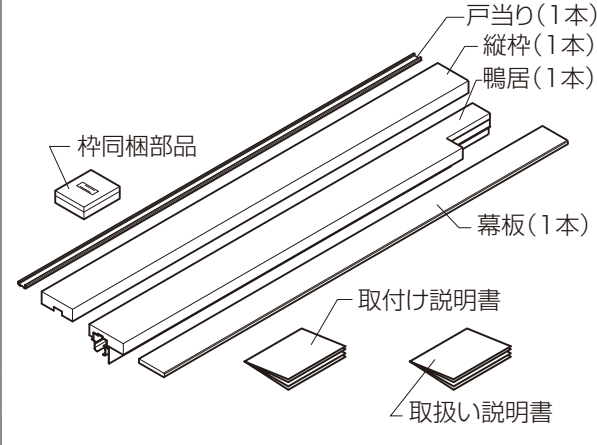
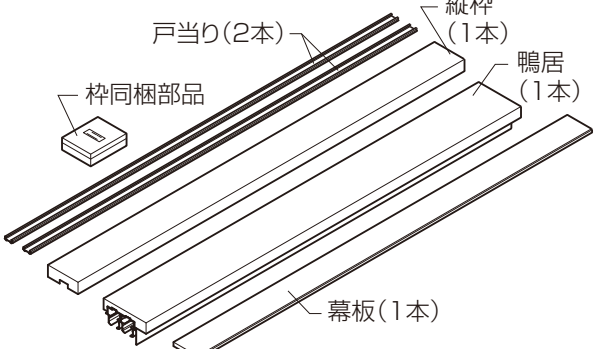
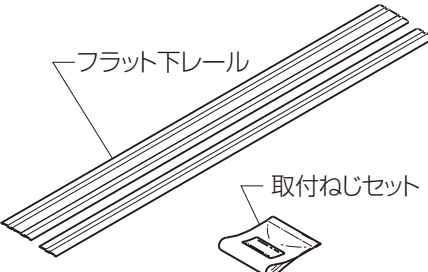
●本体のソリ・ねじれ防止のため、右記場所に置いたり、保管しないでください。・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所

●本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。

※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品です。

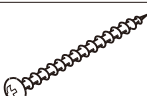
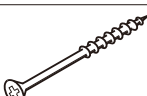
本体	枠 A側(施工後の状態で内側(室内側)から見て右側)	枠 B側(施工後の状態で内側(室内側)から見て左側)	フラット下レール
 1枚梱包×3/1×2枚・2×1枚 1枚梱包×4/2×2枚・1×3枚・3×1枚 1枚梱包×5/2×3枚・3×2枚 1枚梱包×6/3×3枚	 戸当り(1本) 縦枠(1本) 鴨居(1本) 枠同梱部品 幕板(1本) 取付け説明書 取扱い説明書 ※中縦枠、床見切り材が必要な場合は別途現場手配を してください。 ※図は 1 × 2 枚を示します。	 戸当り(2本) 縦枠(1本) 鴨居(1本) 枠同梱部品 幕板(1本)	 フラット下レール 取付ねじセット 埋込みガイドピンセット ガイドピン セット

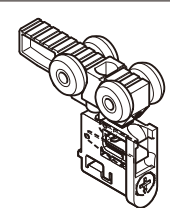
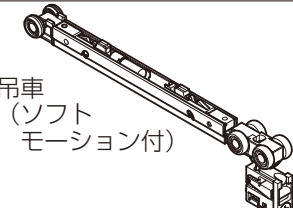
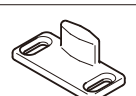
部材名称		W呼称															
		1 × 2 枚		2 × 1 枚		1 × 3 枚		3 × 1 枚		2 × 2 枚		2 × 3 枚		3 × 2 枚		3 × 3 枚	
		A 側 (1 枚側)	B 側 (2 枚側)	A 側 (2 枚側)	B 側 (1 枚側)	A 側 (1 枚側)	B 側 (3 枚側)	A 側 (3 枚側)	B 側 (1 枚側)	A 側	B 側	A 側 (2 枚側)	B 側 (3 枚側)	A 側 (3 枚側)	B 側 (2 枚側)	A 側	B 側
枠	鴨居	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	縦枠	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	幕板	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	戸当り	1	2	2	1	1	3	3	1	2	2	2	3	3	2	3	3
	部品セット	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	取付け説明書	1		1		1		1		1		1		1		1	
	取扱い説明書	1		1		1		1		1		1		1		1	
本体	本体 (1 枚梱包)	3		3		4		4		4		5		5		6	

埋込みガイドピン セット(別売品)	1 × 2 枚 (2 × 1 枚)	1 × 3 枚 (3 × 1 枚)	2 × 2 枚	2 × 3 枚 (3 × 2 枚)	3 × 3 枚
	10個入り×1セット 2個入り×2セット	10個入り×2セット 2個入り×1セット	10個入り×2セット	10個入り×1セット 18個入り×1セット	18個入り×2セット
フラット下レール(別売品)	1	1	1	1	1
召合せパッキン(別売品)	1		1	1	1

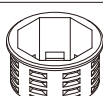
※ A 側は、施工後の状態で内側(室内側)から見て右側を示し、B 側は左側を示す。

■枠同梱部品

部材名称	
皿小ねじM4×50 (鴨居・縦枠組立て用)	
トラスタッピンねじφ4×50 (鴨居取付け用)	
DNねじ(皿木ねじ)φ3.8×50 縦枠取付け用	

部材名称	
吊車	
吊車 (ソフト モーション付)	
固定ガイドピン(使用しません)	
	

■埋込みガイドピンセット(別売り)

部材名称	
埋込みガイドピン	
埋込みガイドピンベース	

部材名称	1 × 2		2 × 1		1 × 3		3 × 1	
	A 側 (1 枚側)	B 側 (2 枚側)	A 側 (2 枚側)	B 側 (1 枚側)	A 側 (1 枚側)	B 側 (3 枚側)	A 側 (3 枚側)	B 側 (1 枚側)
枠組立て用皿小ねじM4×50	4	4	4	4	4	4	4	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじ1種φ4×50	8	10	10	8	8	19	19	8
縦枠取付け用DNねじφ3.8×50	6	6	6	6	6	6	6	6
固定ガイドピン(使用しません)	1	—	—	1	1	—	—	1
ガイドピン固定用皿タッピンねじ1種φ3.5×20(使用しません)	2	—	—	2	2	—	—	2
吊車(ソフトモーション付)	1	2	2	1	1	3	3	1
吊車	1	2	2	1	1	3	3	1
ソフトモーション受け金具	1	2	2	1	1	3	3	1
受け金具取付用低頭小ねじM3×16	2	4	4	2	2	6	6	2

部材名称	2 × 2		2 × 3		3 × 2		3 × 3	
	A 側	B 側	A 側 (2 枚側)	B 側 (3 枚側)	A 側 (3 枚側)	B 側 (2 枚側)	A 側	B 側
組立て用皿小ねじM4×50	4	4	4	4	4	4	4	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじ1種φ4×50	10	10	10	19	19	10	19	19
縦枠取付け用DNねじφ3.8×50	6	6	6	6	6	6	6	6
吊車(ソフトモーション付)	2	2	2	3	3	2	3	3
吊車	2	2	2	3	3	2	3	3
ソフトモーション受け金具	2	2	2	3	3	2	3	3
受け金具取付用低頭小ねじM3×16	4	4	4	6	6	4	6	6

■召合せパッキンセット(別売り)

部材名称	入数
召合せパッキン	2

※召合せパッキンは1本のみ使用します。

■引手セット(別売り)

部材名称	入数
引手	2

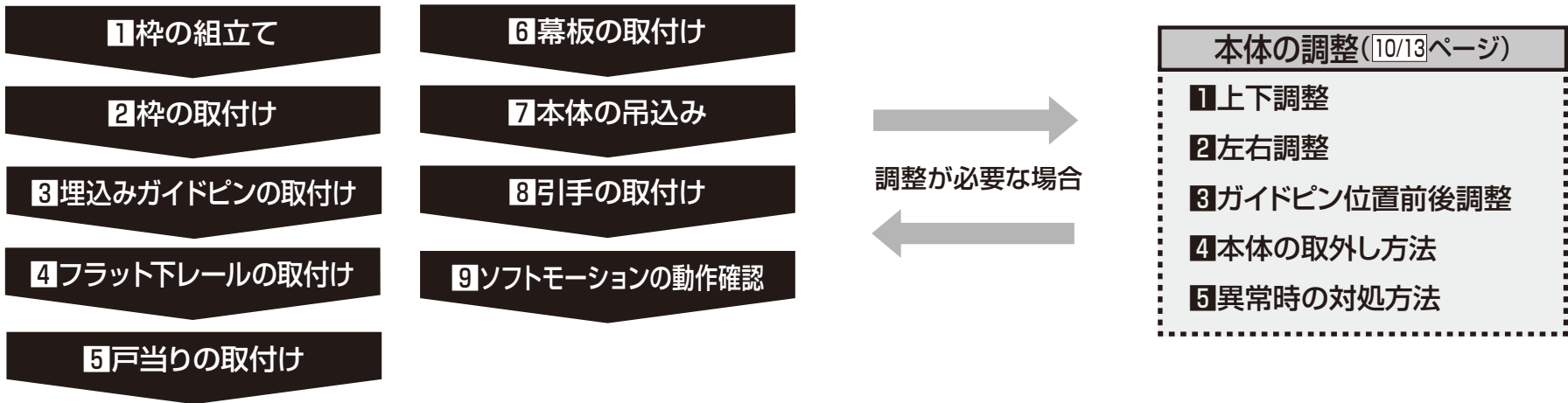
開口部の作り方

●製品寸法(納まり図参照)に合わせて、開口部の下地材を作ってください。

お願い

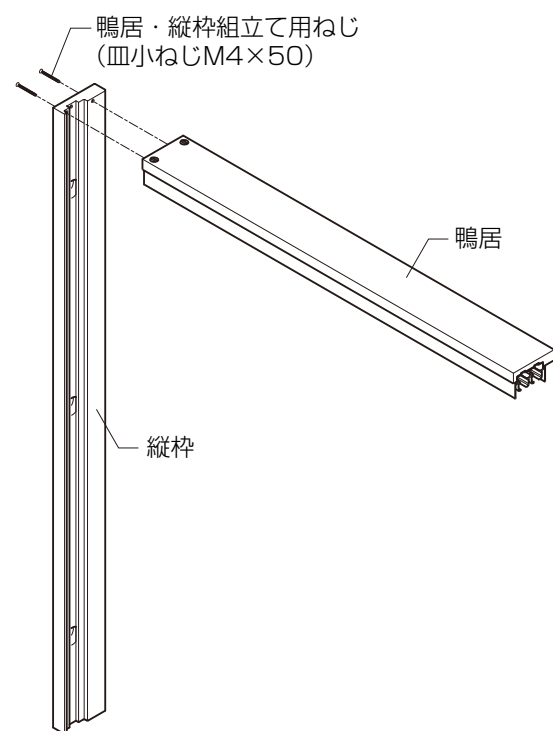
- ※床裏に補強材が入っていることを確認してください。
- ※本製品は床先張り(枠後付け)専用です。枠の取付け前に床を張ってください。
- ※開口部の水平・垂直を正しく出してください。
- ※本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は強度を要するため、必ず本体重量に耐える断面寸法のものを使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。
- ※本体重量は1枚あたり8~40kg程になりますので必ず構造計算を行い、取付け躯体に十分な強度を持たせてください。

取付け順序



取付け順序

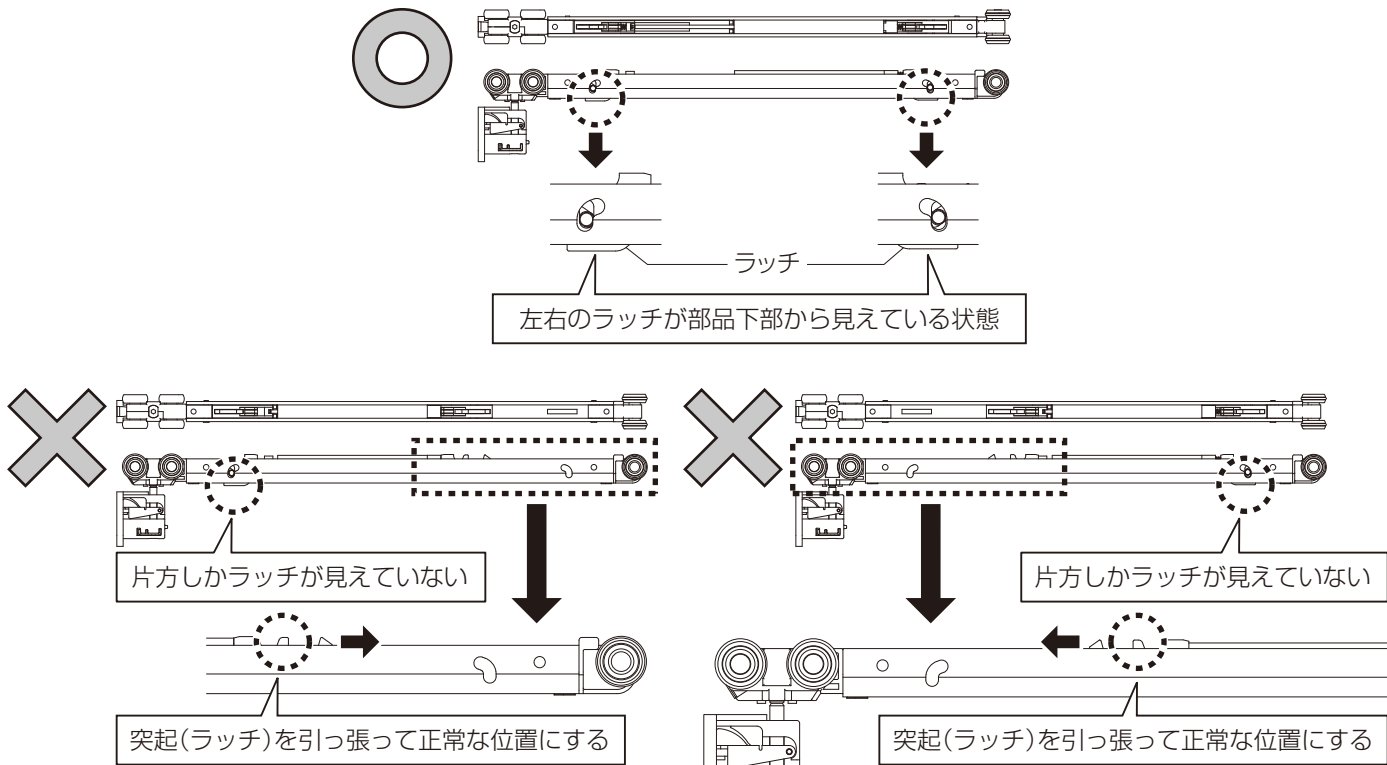
1 枠の組立て



※縦枠の切詰めは不要です。

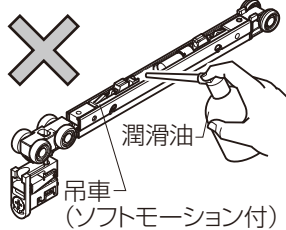
1 枠の組立て

●吊車(ソフトモーション付)のレール挿入前の確認

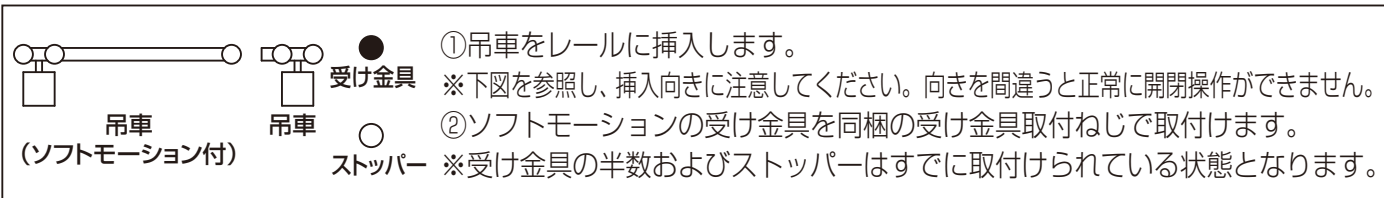


お願い

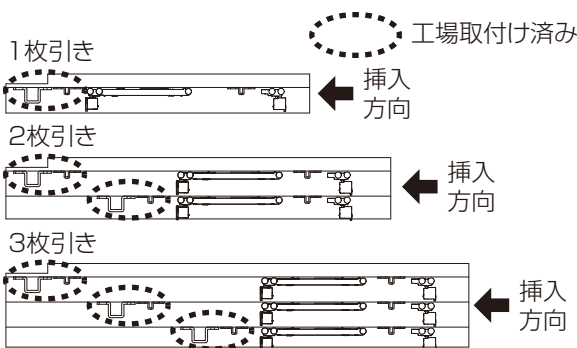
- ※吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。



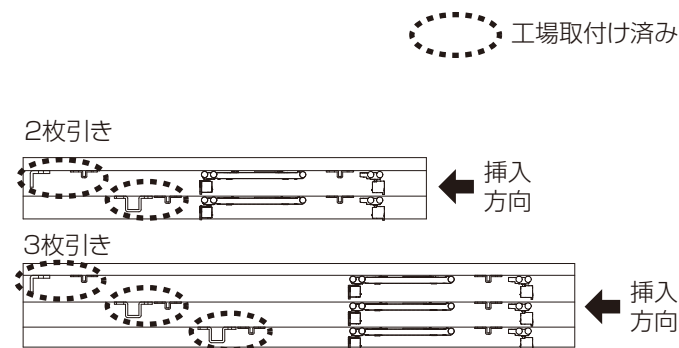
レールの取付け方向と受け金具の取付け位置



●切欠きあり側



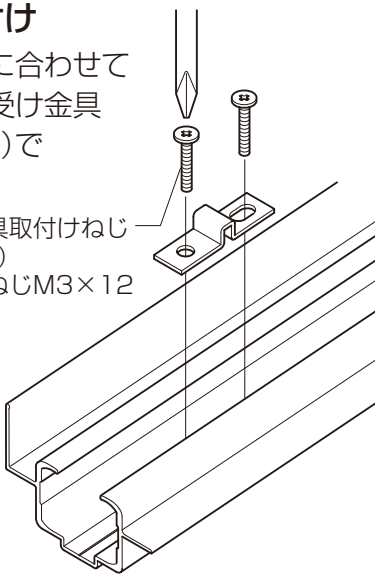
●切欠きなし側



■受け金具の取付け

- ①鴨居レールの下穴に合わせて受け金具を設置し受け金具取付けねじ(同梱品)で固定します。

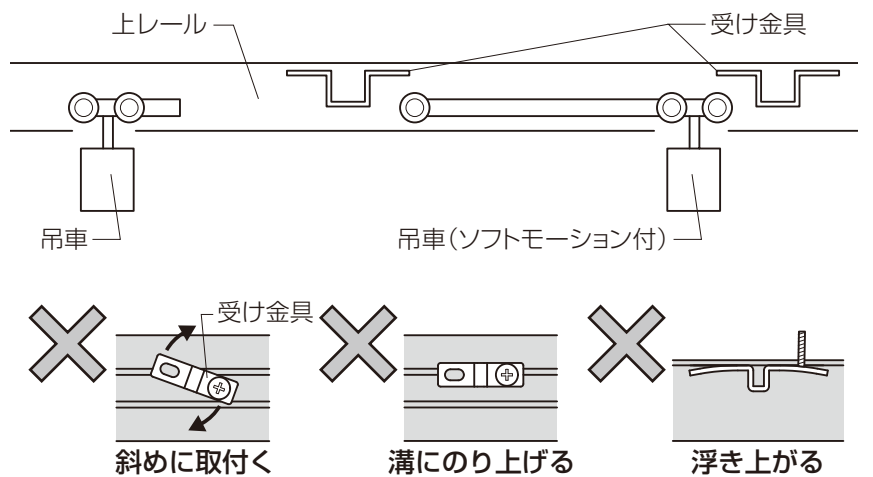
受け金具取付けねじ
(同梱品)
低頭小ねじM3×12



お願い

※吊車(ソフトモーション付)は2個の受け金具の間に来るように配置します。

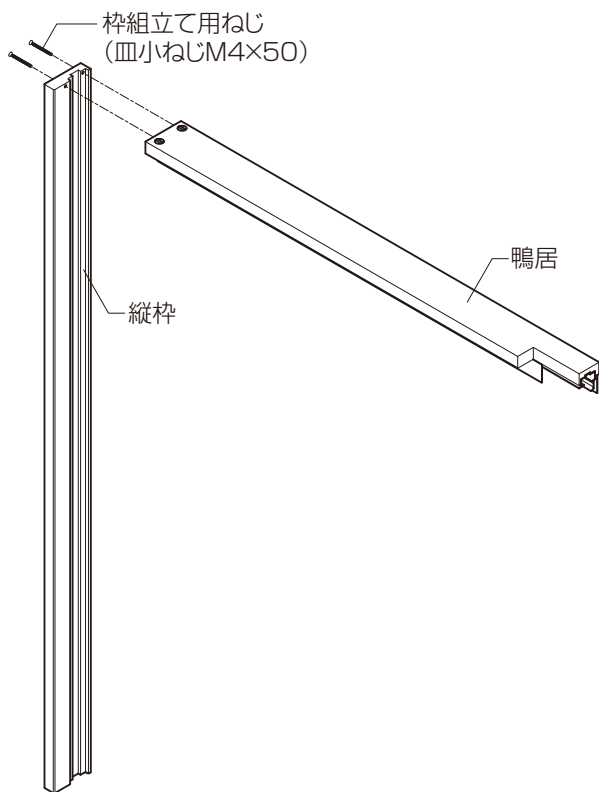
※完全に固定されるまで、上レールにしっかりと固定してください。ソフトモーションの作動不良の原因になります。



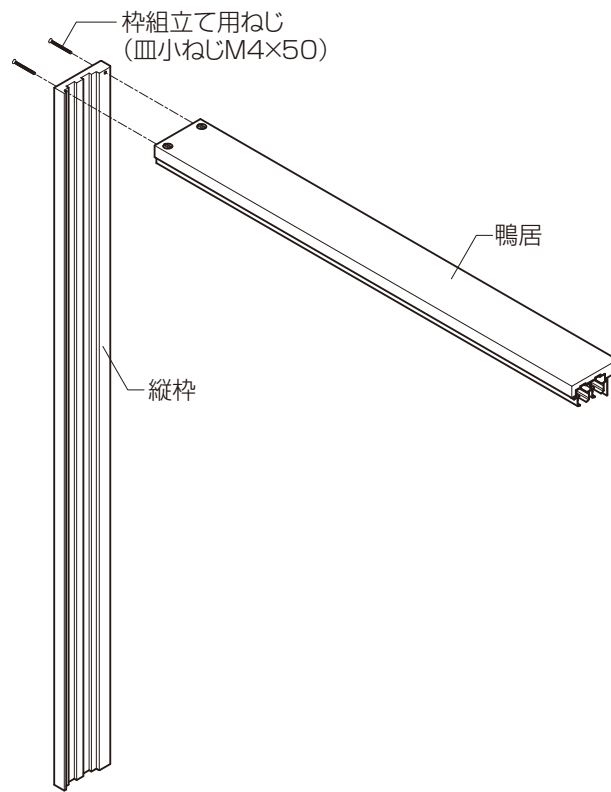
■縦枠の組立て

下図のように鴨居と縦枠を組合せ、枠組立て用ねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

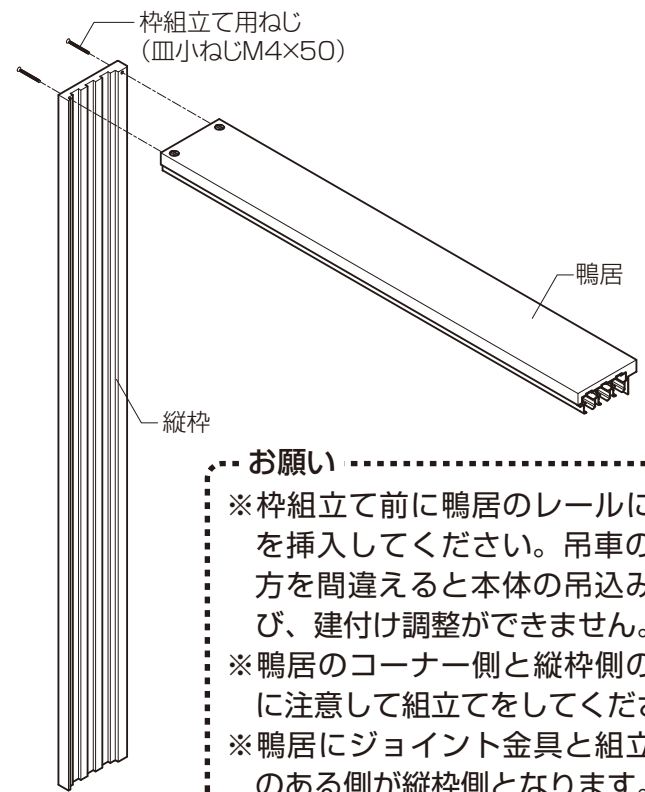
●1枚引き



●2枚引き



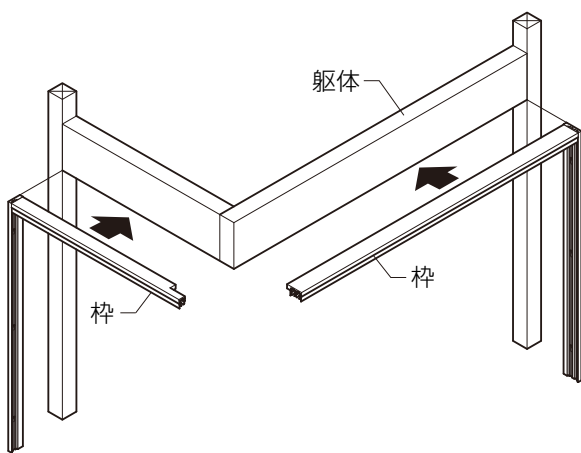
●3枚引き



お願い

※枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
※鴨居のコーナー側と縦枠側の向きに注意して組立てをしてください。
※鴨居にジョイント金具と組立て穴のある側が縦枠側となります。
※納まり図を確認し、鴨居と縦枠の組合せに注意して組立てをしてください。

2 枠の取付け



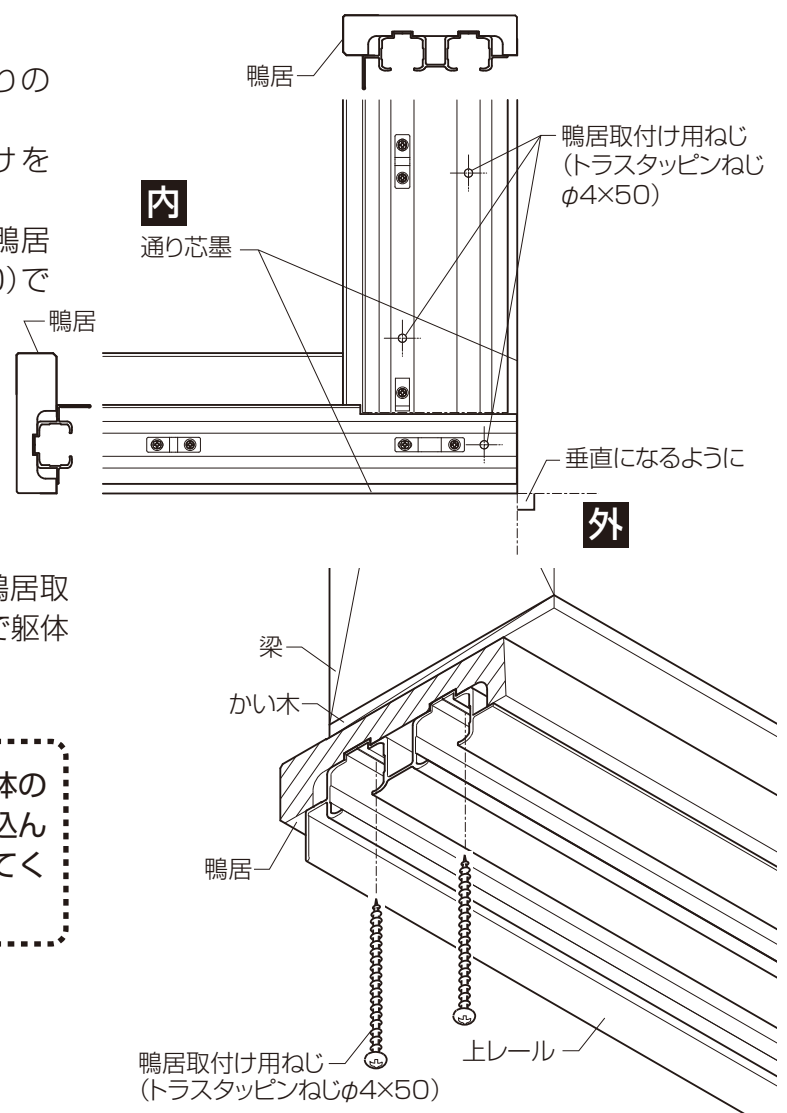
2 枠の取付け

- ①納まり図を参考に枠を取付ける位置に、通りの芯墨を出してください。
※部材の方向(内・外側)を確認して取付けを行ってください。
②位置出しをしたところにそれぞれの鴨居を鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で仮固定します。
※墨出しした位置にそれぞれの鴨居を突き付け、鴨居が互いに垂直になるように設置してください。

- ③鴨居はかい木を入れて、上レールの穴から鴨居取付け用ねじ(トラスタッピンねじφ4×50)で躯体に固定してください。

お願い

※鴨居の躯体固定ねじを締込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体を吊込んだときに動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



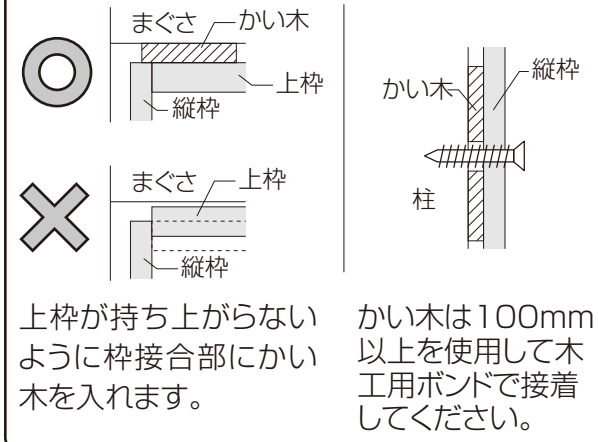
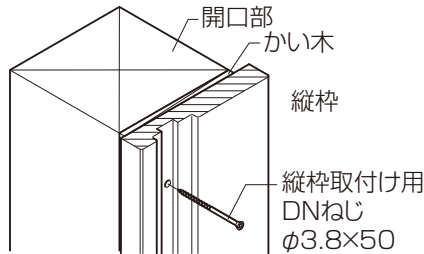
- ④水準器で上枠の水平を確認してから、縦枠の上部を縦枠取付け用DNねじφ3.8×50で仮固定をしてください、
- ⑤下げ振りを使って垂直・倒れが無いことを確認してから縦枠の下部を仮固定してください。
- ⑥枠の水平・垂直を再度確認して、上下左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。
- ※縦枠の固定個所を増やしたい場合は現場手配の木ねじで躯体に固定してください。

●お願い

- ※建具引込み部の小壁の取付けは、枠を開口部に取付けてから行なってください。
- ※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて取付けてください。
- ※本製品には中縦枠は同梱されていません。小壁の仕上げは現場にて対応してください。

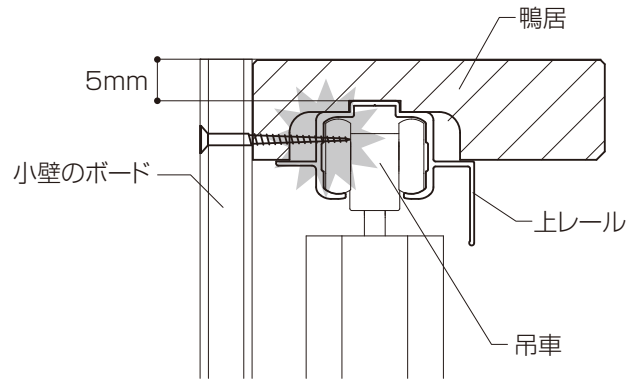
■縦枠

※縦枠取付け用DNねじφ3.8×50で固定してください。



■小壁のボード取付け

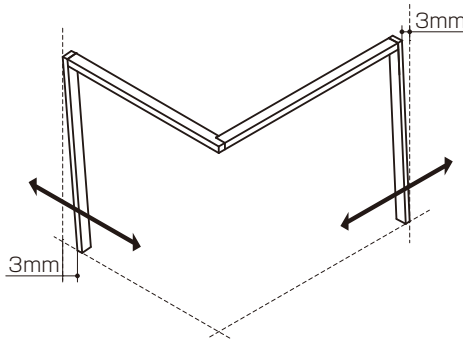
- 小壁のボードを取付ける際、取付けねじが鴨居と上レールを貫通しないように注意してください。



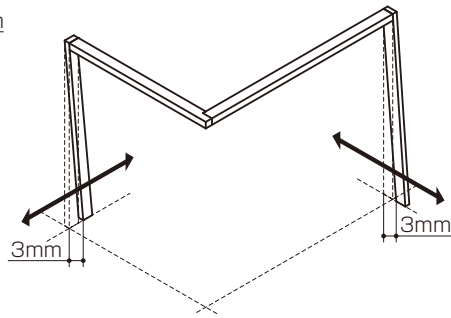
■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれが3mmをこえる場合、枠のタイコ・ツツミが両端・中央で+1、-2mmを超える場合は取付け修正を行ってください。
(引戸が吊込めない・ソフトモーション機構の作動不具合・ガイドピンの外れの原因となります。)

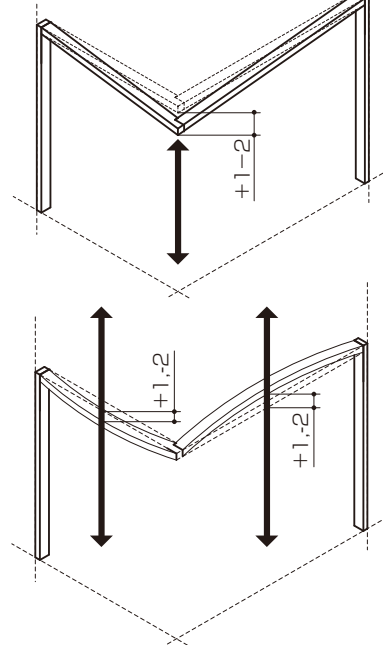
●横方向の倒れ



●奥行き方向のねじれ



●枠のタイコ・ツツミ

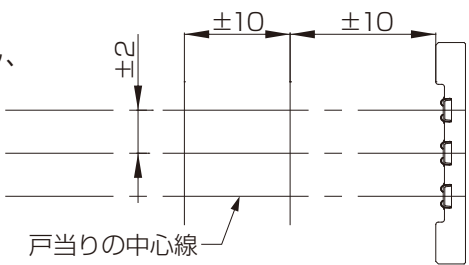


3 埋込みガイドピン納まりの場合

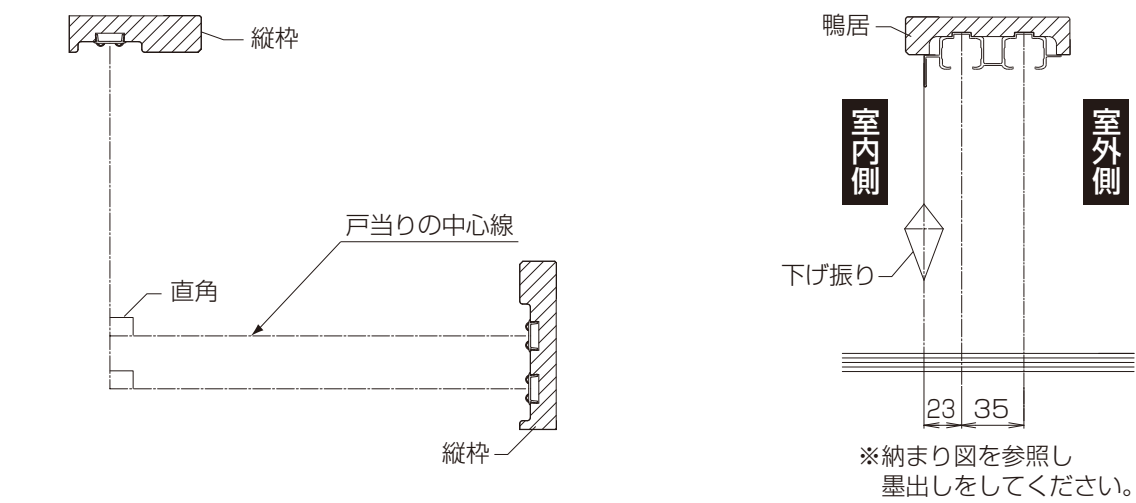
3 埋込みガイドピンの取付け

①参考納まり図のガイドピン配置図 11/13～13/13 ページを参照し、ガイドピンの位置出しをしてください。

※位置のズレは開閉方向で±10mm以下、本体の面方向で±2mm以下で位置出しをしてください。
ズレが大きい場合、開閉時に本体がピンからはずれる場合があります。

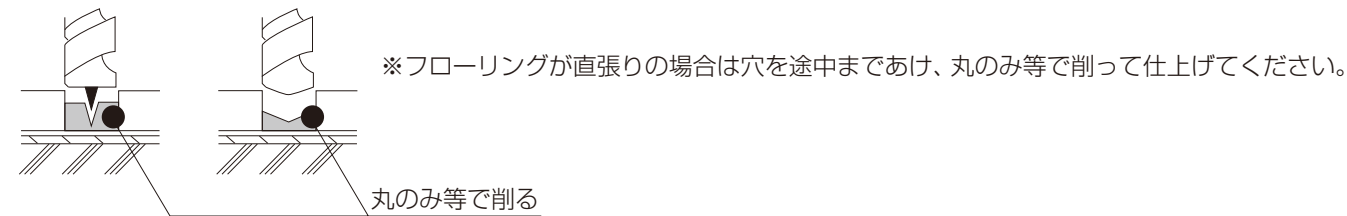
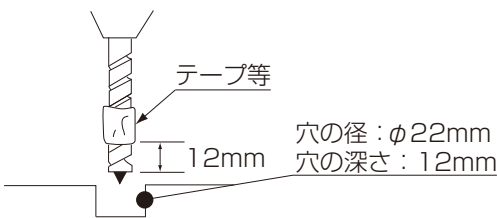


お願い
※上レールの本体引戸の中心線の真下になるよう墨出しをしてください。
※A側、B側の墨出しは必ず垂直になるように行ってください。
位置出しができていないと本体開閉不具合の原因となります。

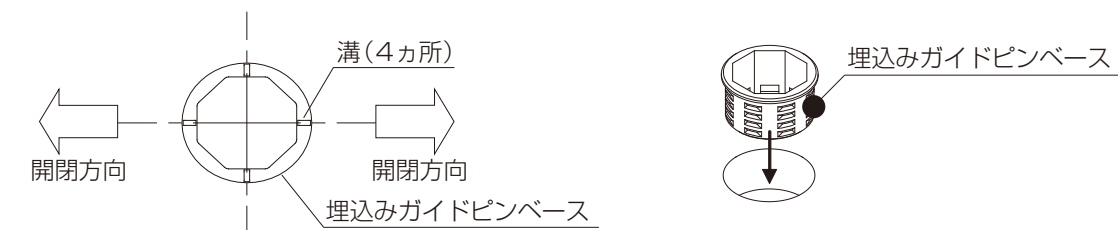


②ガイドピンの位置にドリル(φ22)で穴を開けてください。

※ドリルの穴の深さの位置にテープを巻き目印とすると確実に12mm深さの穴をあけることができます。
※穴の深さが不足していると埋込みガイドピンベースが最後まで入らず走行性が悪くなります。
※穴をあけた後、バリ、切粉を取り除いてください。
※穴をあける際は床に対してドリルを垂直にしてください。本体開閉時の走行性が悪くなるおそれがあります。

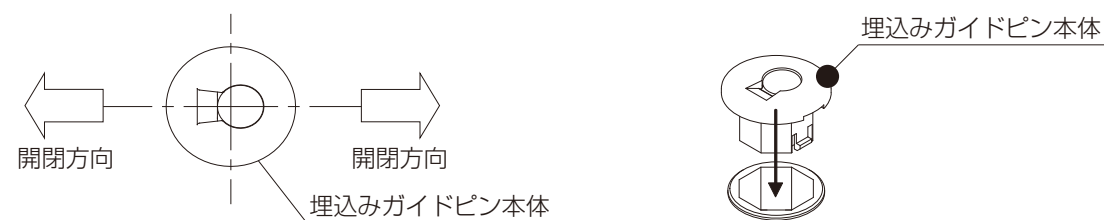


③埋込みガイドピンベースを部品のツバ部の溝が本体の走行方向に並行、または垂直になるように穴にはめ込んでください。
※確実に埋込みガイドピンベースがはまっていることを確認してください。



④埋込みガイドピンベースにガイドピン本体を図のようにカチッと音がするまで押込んでください。

※本体の吊込み後にピンの位置調整をします。
本体吊込み後に、ガイドピン本体を取付ける場合は紛失に注意してください。



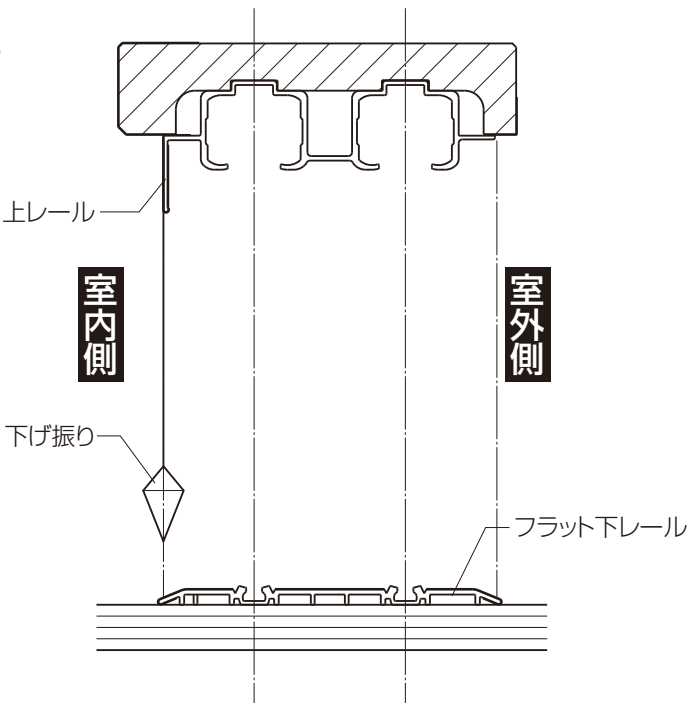
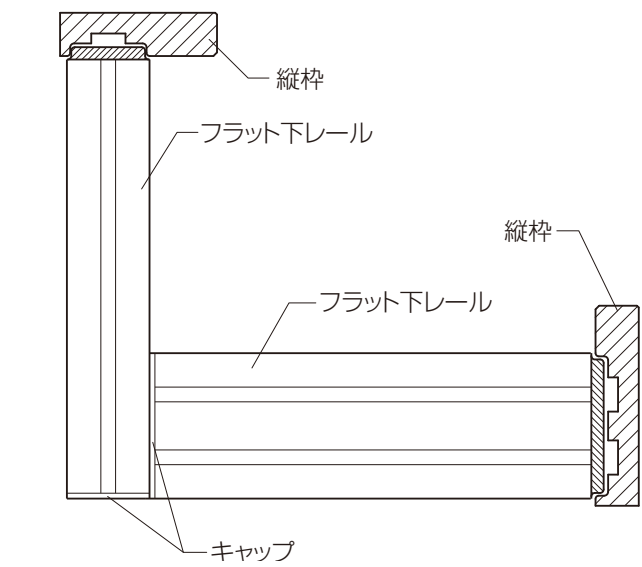
4 フラット下レール納まりの場合

4 フラット下レールの取付け

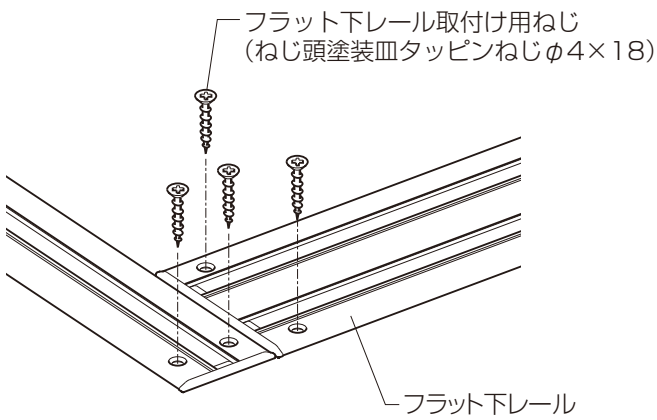
①納まり図を参考にフラット下レールを取付ける位置に墨出しをします。

お願い
※上レールの真下にフラット下レールがくるように位置出ししてください。
位置出しができていないと本体開閉不具合の原因となります。

②墨出した位置に縦枠とフラット下レールを突き付け、フラット下レールが互いに垂直になるように設置してください。
※キャップのついている側がコーナー側となります。

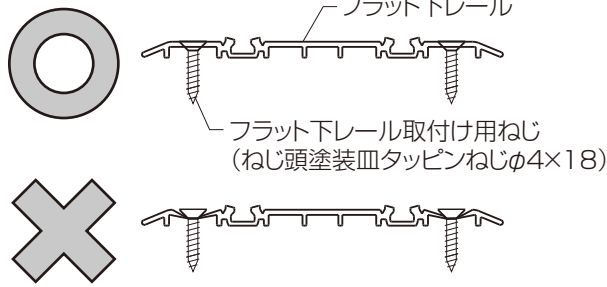


③フラット下レールをフラット下レール取付け用ねじ(ねじ頭塗装皿タッピンねじφ4×18)で固定します。



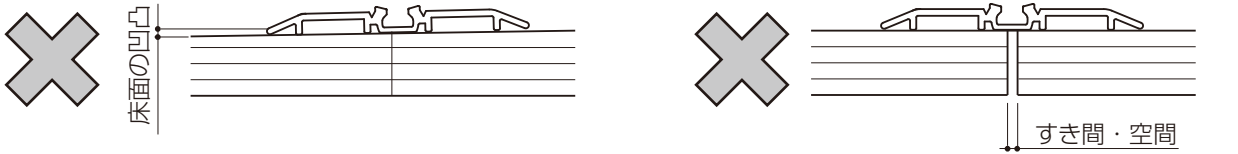
お願い

※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。



お願い

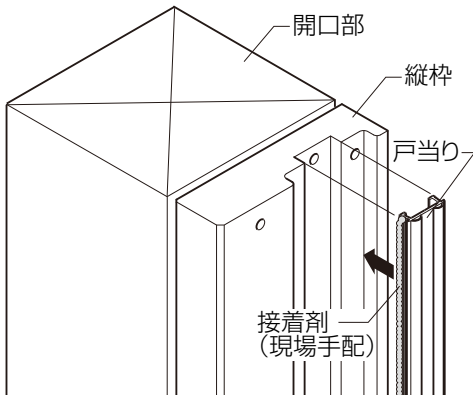
※フラット下レールを固定する床(下地)は段差やすき間がないように仕上げてからレールを平らな面に固定してください。



5 戸当りの取付け

5 戸当りの取付け

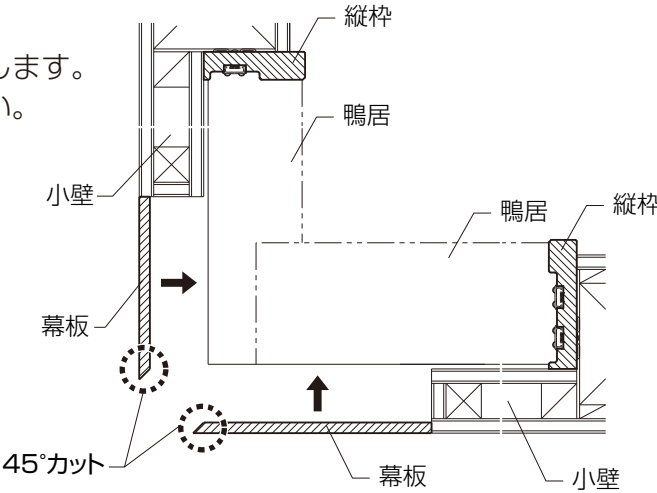
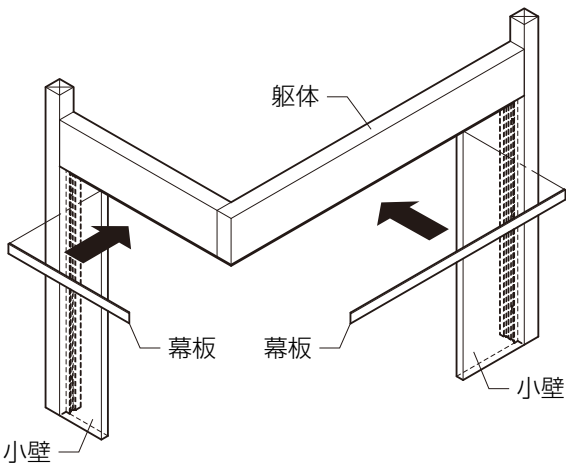
①戸当りに接着剤(現場手配)を付けて溝をふさぎます。
※戸当りは必ず、下枠取付け後に取付けてください。
※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。
※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行うようにしてください。



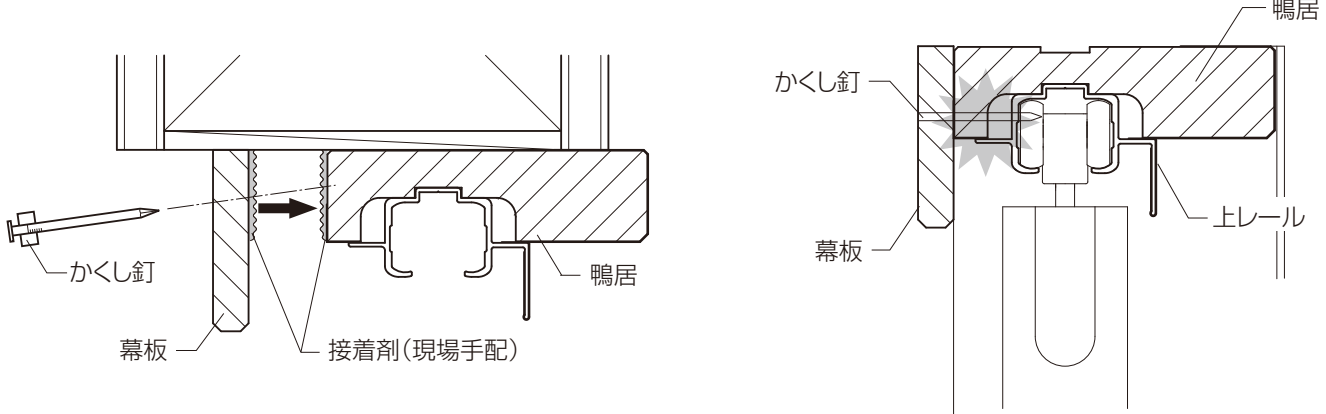
6 幕板の取付け

6 幕板の取付け

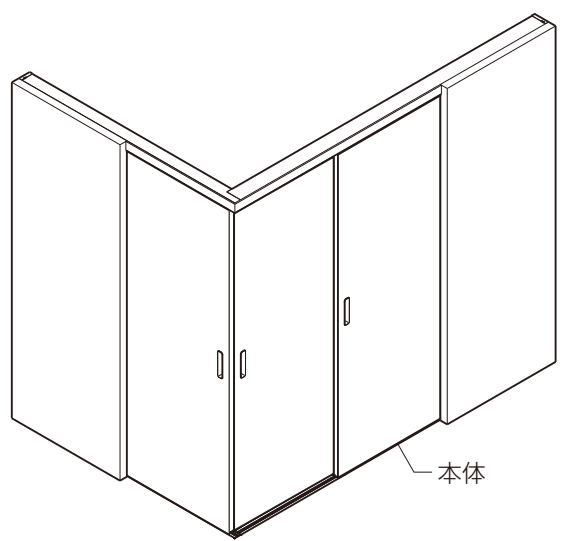
※小壁を仕上げた後に幕板を取付けます。
①幕板を現場寸法に合わせてコーナー側を45°カットします。
※幕板の上下取付け方向に注意してカットしてください。



- ②幕板裏面の鴨居接着部分にまんべんなく接着剤(現場手配)を塗布します。
- ③かくし釘(現場手配)で固定します。
- ※上レールにかくし釘を打込まないように注意してください。レールを貫通し、吊車を破損し、作動不具合の原因となります。



7 本体の吊込み

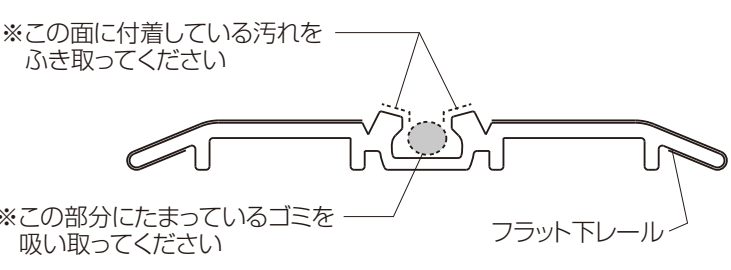


7 本体の吊込み

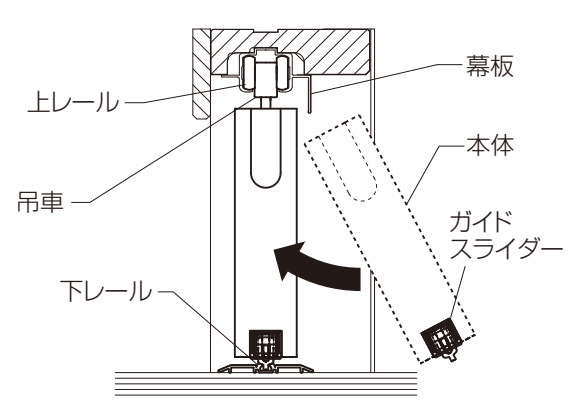
※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

【フラット下レール納まりの場合】

- ①レールの清掃を行ってください。



本体を持上げて、本体上部を上レールの幕板の内側に入れ、その後、本体下部のガイドスライダーを下レールにはめ込みます。



お願い

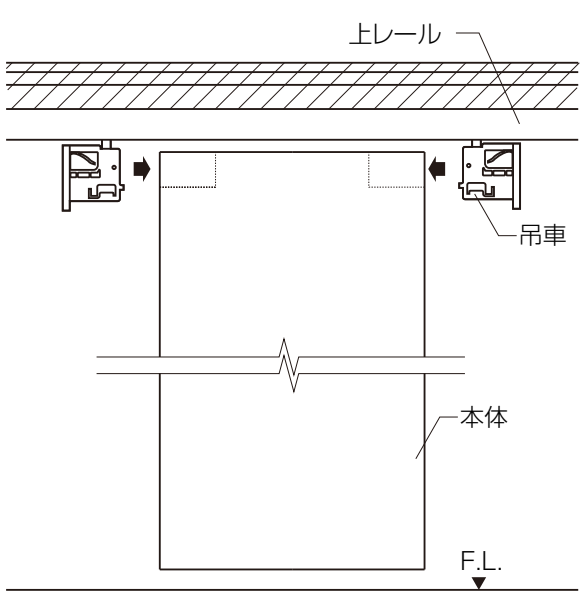
※吊車 (ソフトモーション付) に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

×

潤滑油

吊車 (ソフトモーション付)

- ①片側ずつ吊車を本体に**水平に押込む**と、ワンタッチで取付けられます。
- ※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。
- ②本体と床のチリ寸法が 8 (-1、+2) mm の範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は [10/13](#) ページの『**■** 本体の調整 **1** 上下調整』の手順にそって調整をしてください。



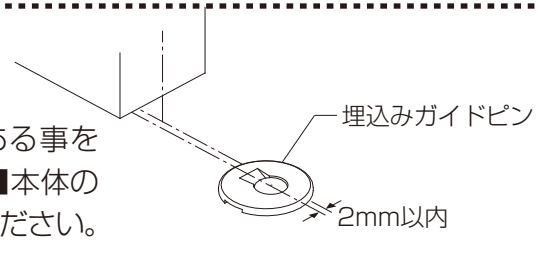
▲ 注 意

- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

【埋込みガイドピンの場合】

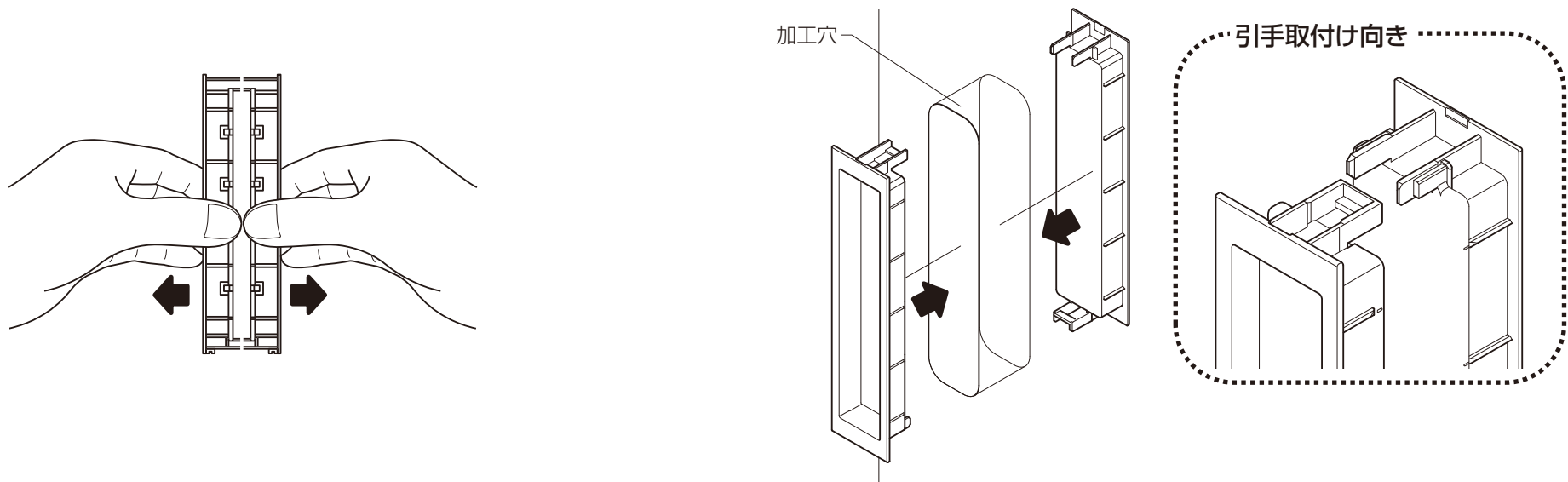
※本体の吊り込み後に以下の確認を行ってください。

- ③全てのガイドピンの中心が本体の中心から2mm以内にある事を確認してください。調整が必要な場合は、[10/13](#) ページの『**■** 本体の調整 **3** ガイドピン位置前後調整』の手順にそって調整をしてください。



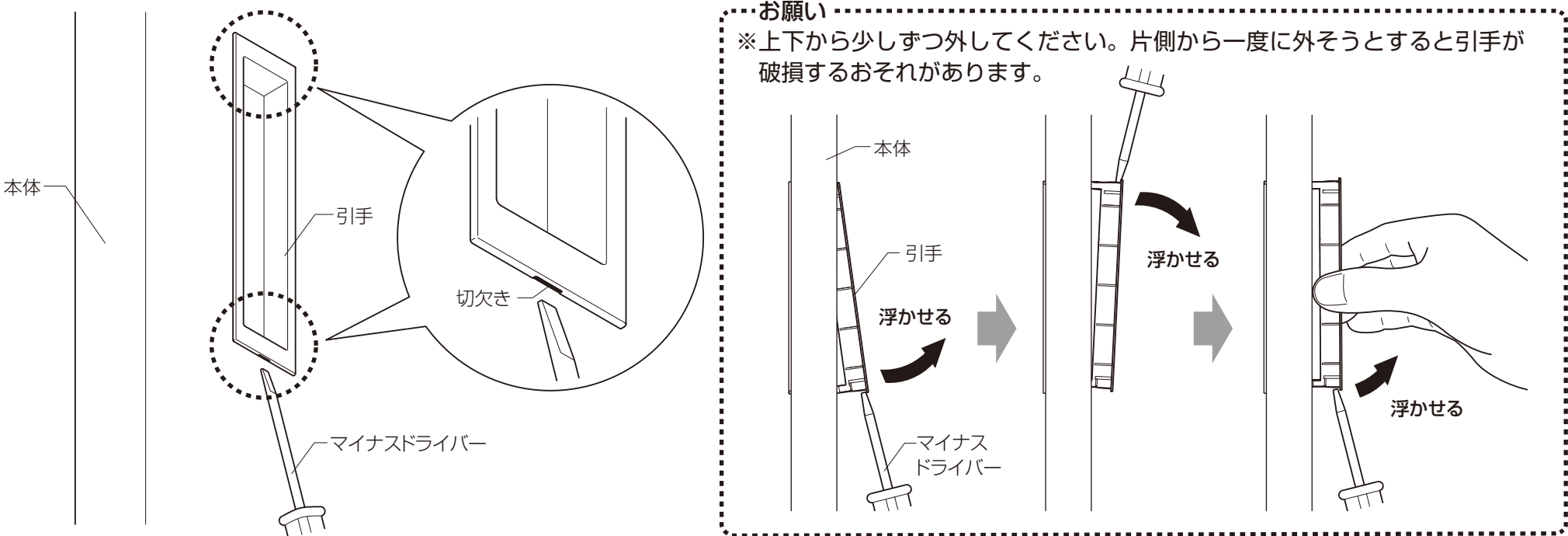
8 引手の取付け

- ①引手は仮組み状態になっています。平行に引き抜いてください。
- ②引手本体の加工穴に引手を取付けます。表裏の引手が上下互い違いになる向きにし、加工穴に押し込み固定してください。



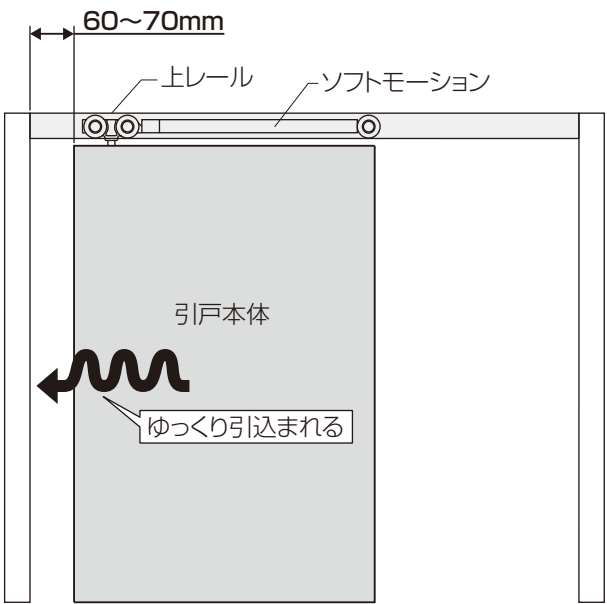
●引手の取外し

引手上下にある切欠きに本体をキズ付けないようにマイナスドライバーを差込み、少しずつ引手を浮かせて外します。



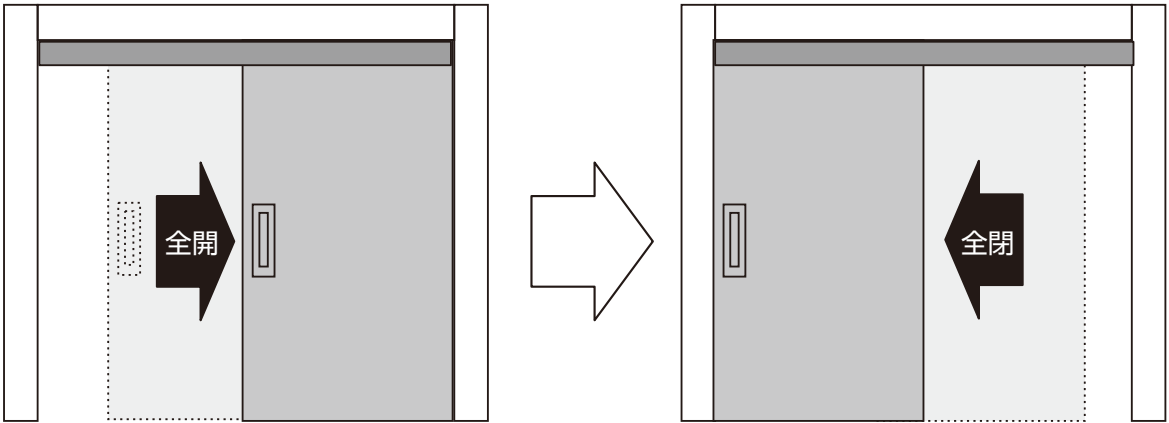
9 ソフトモーションの動作確認

- 本体を停止位置より60～70mm動かして、ゆっくりと引き込まれるか確認してください。



■ソフトモーション機構の自動復帰方法

- ※本体を吊り込んでもソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。
- ①本体を全開してください。
 - ②本体を全閉してください。
 - ③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。
- ※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。
- ※ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



■ 本体の調整

※ 本体召合せ部のチリが大きい場合、吊車の上下・左右調整でチリが小さくなるように調整してください。

1 上下調整(調整幅 上4mm、下1mm)

- プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ※ 床面と本体下部とのチリ寸法は、8 (-1、+2) mmです。
- ※ 本体と床のすき間が範囲からはずれていると、ガイドピン・ガイドスライダーがはずれたり、ガイドピン・埋込敷居・フラット下レールと引戸の下部がこすれる場合があります。

2 左右調整(±2mm)

- 左右調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

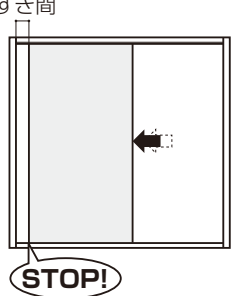
3 ガイドピン位置前後調整(調整幅 4 mm)

- ガイドピンの切欠き部(2ヵ所)にマイナスドライバーを同時に差込んで外してください。
- ※ 切欠き部1ヵ所だけで外すと、製品が変形するおそれがあります。
- ※ 床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。
- 本体が静止していることを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。
- ※ 中心のズレは2mm以下に調整してください。
- ※ 中心がずれていると、可動間仕切り開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。
- ※ ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。
- 位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ最後まで押込んでください。

4 本体の取外し方法

- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。
- ※ 取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押上げながら引抜いてください。

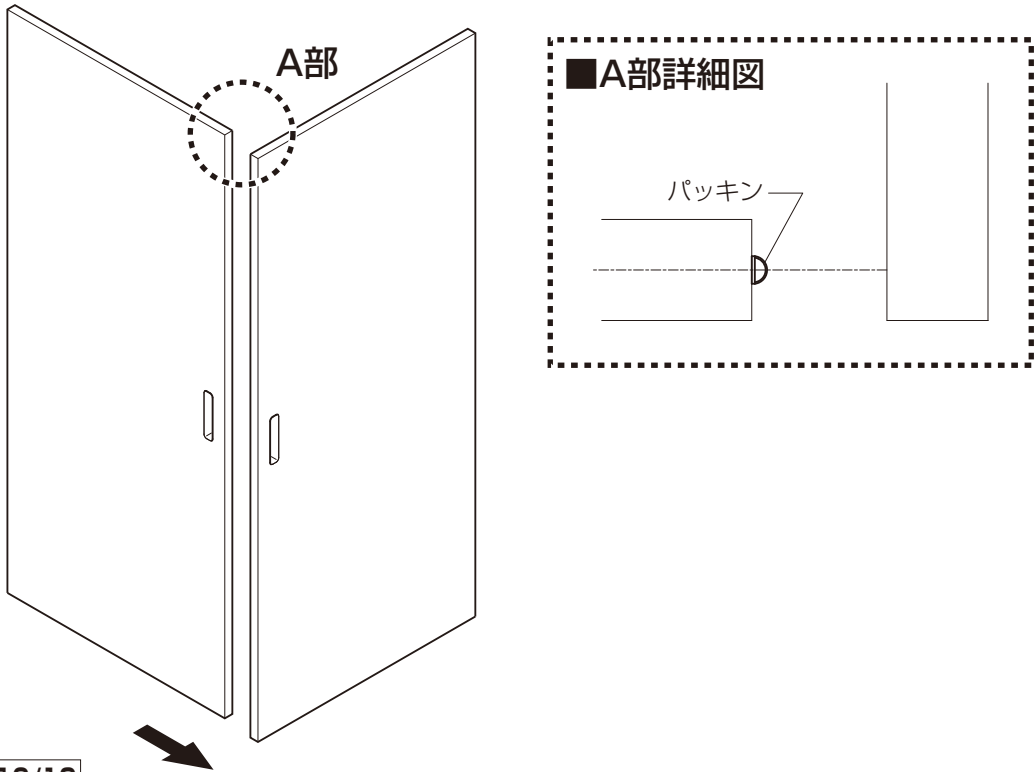
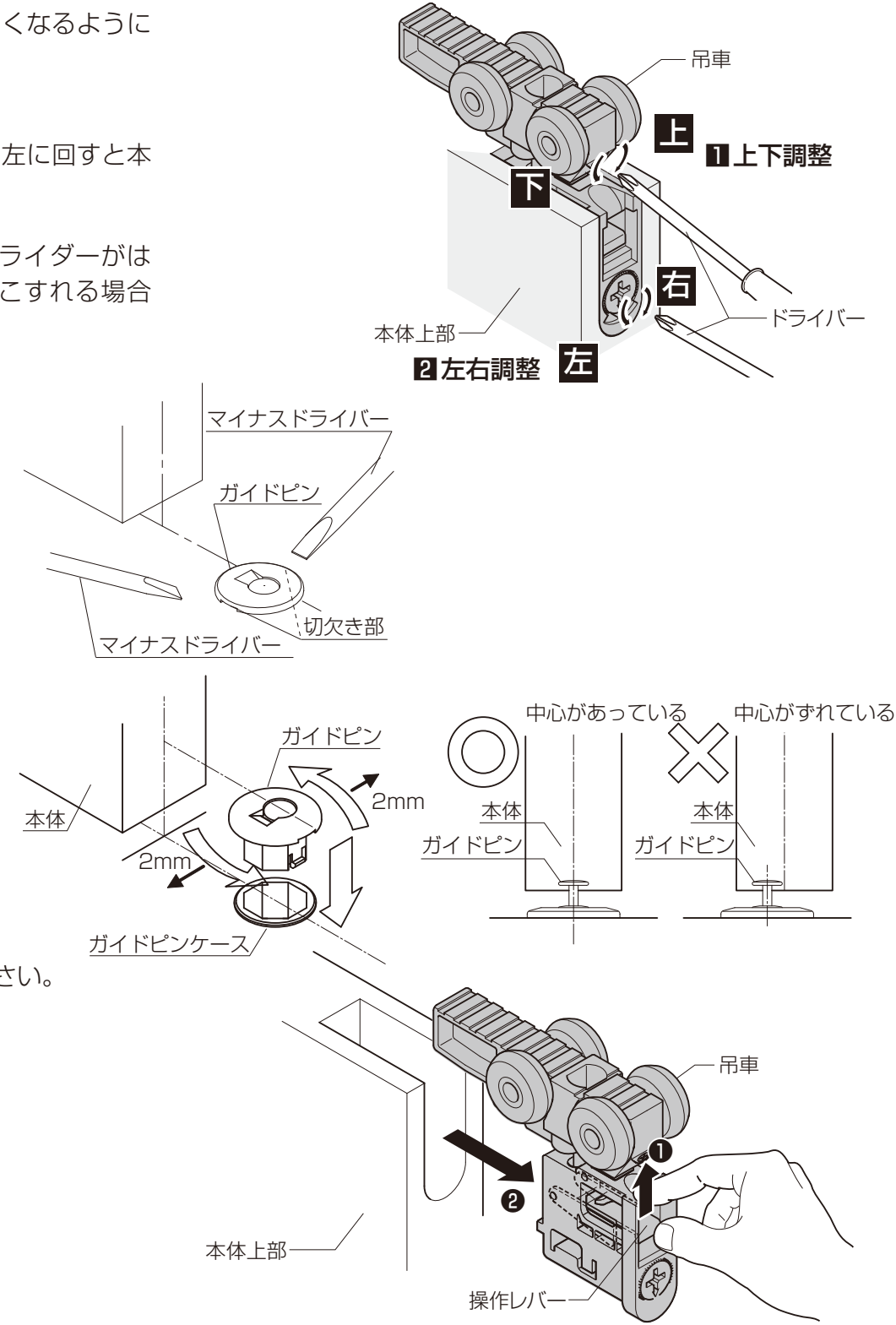
5 異常時の対処方法

現 象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない 	● 枠の取付け精度が許容範囲をオーバーしている ※ [5/13] ページの『■ 取付け精度の許容範囲』の欄参照	許容範囲内となるように再施工してください。

■ 召合せパッキンの取付け

- ① 本体の吊込み・建付け調整を行った後、召合せ部にパッキンを取付けます。
- ② パッキン裏面のシートをはがし、右図の位置に5kg程度の力で押して張付けます。パッキンは長めのものを同梱していますので、現場でカットしてください。

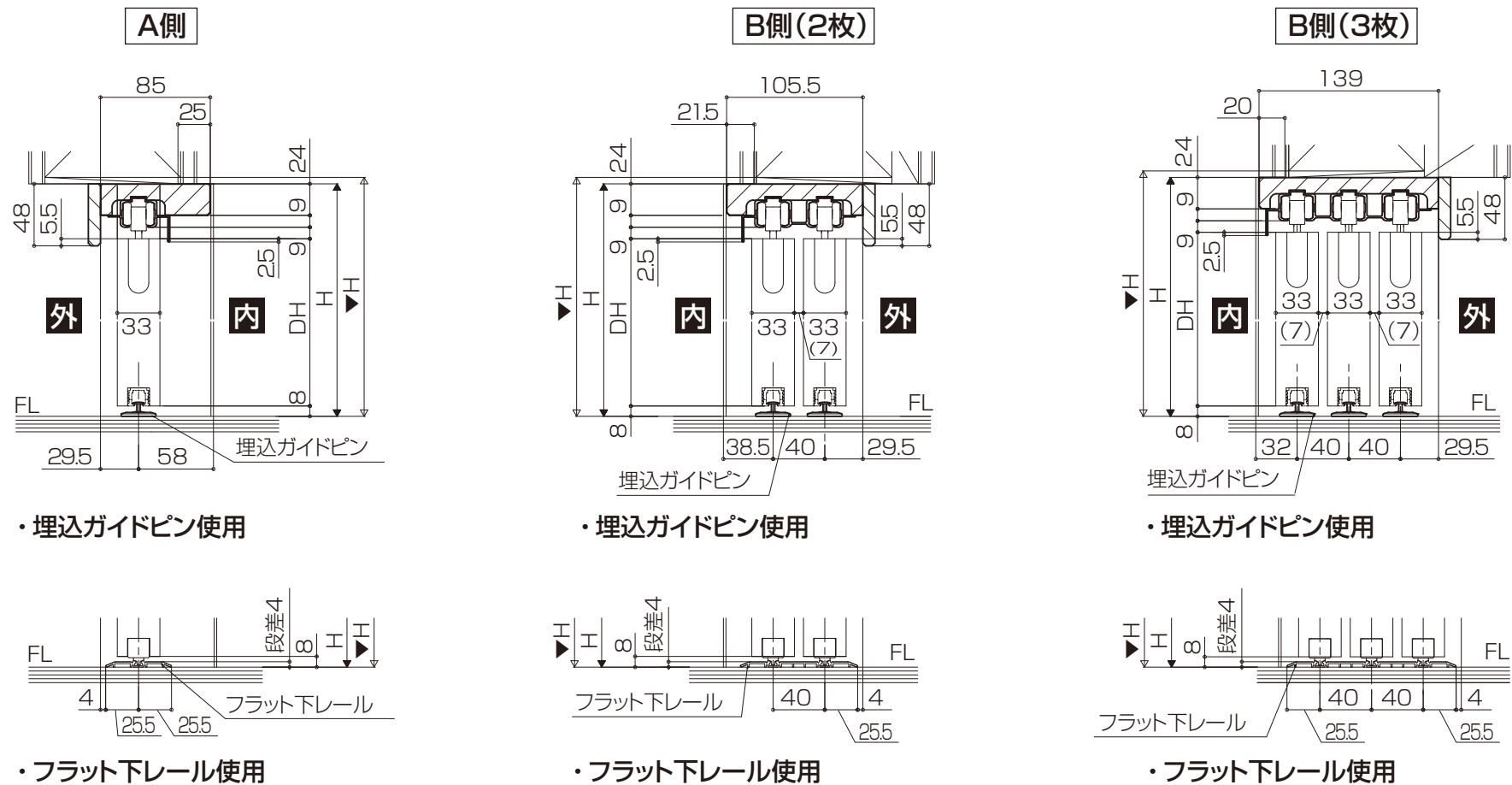
- お願い
- ※ パッキンは、必ず本体を吊込んで、建付け調整を行ってから張付けてください。
 - ※ パッキンは、張付け面のホコリ・汚れ・油分などを取除いてから張付けてください。
 - ※ はがす場合は、上部からゆっくりと引っ張ってはがしてください。勢いよくはがすと、表面シートを傷める可能性があります。



■納まり図

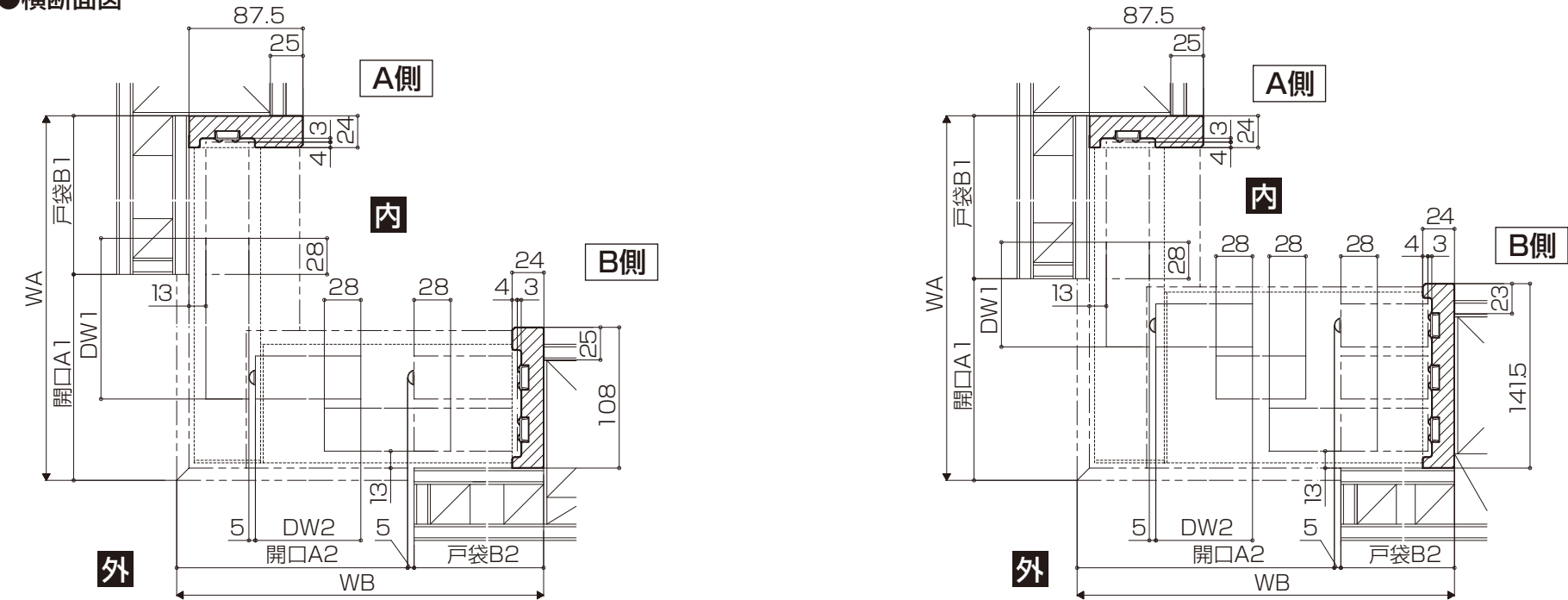
■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ 1×2枚(2×1枚)、1×3枚(3×1枚)

●縦断面図

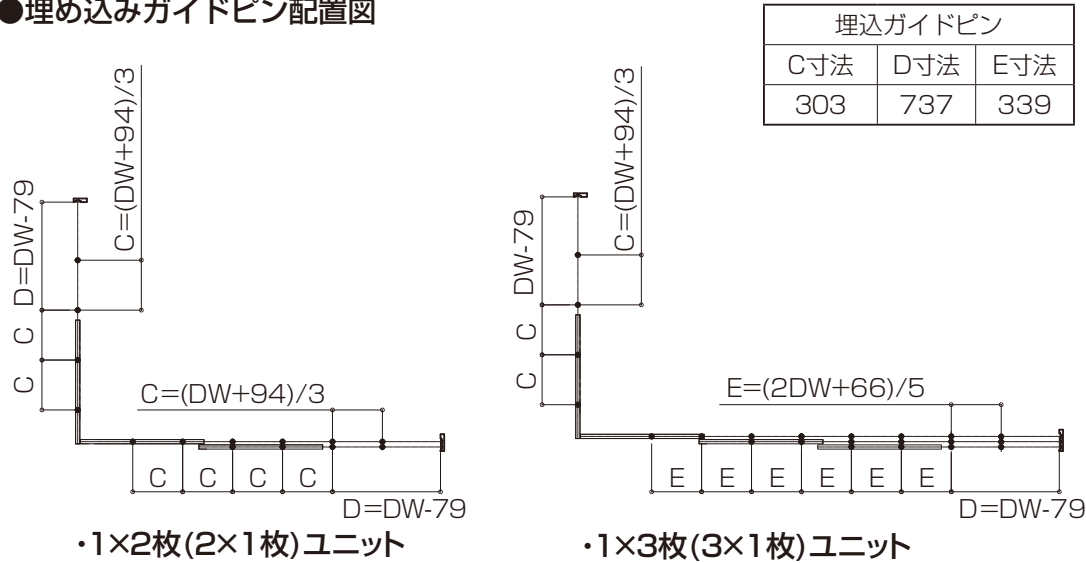


※A側が2枚、B側が1枚の呼称2×1枚、およびA側が3枚、B側が1枚の呼称3×1枚は本図と対称とします。

●横断面図



●埋め込みガイドピン配置図



埋込ガイドピン		
C寸法	D寸法	E寸法
303	737	339

部材名称	1枚側		2枚側		3枚側	
	形材番号	枠幅寸法	形材番号	枠幅寸法	形材番号	枠幅寸法
縦枠	7630	87.5	7654	108	7668	141.5
鴨居	7847	85	7848	105.5	7849	139
幕板	7570	48	7570	48	7570	48
フラット下レール	7484	51	7485	91	7486	131

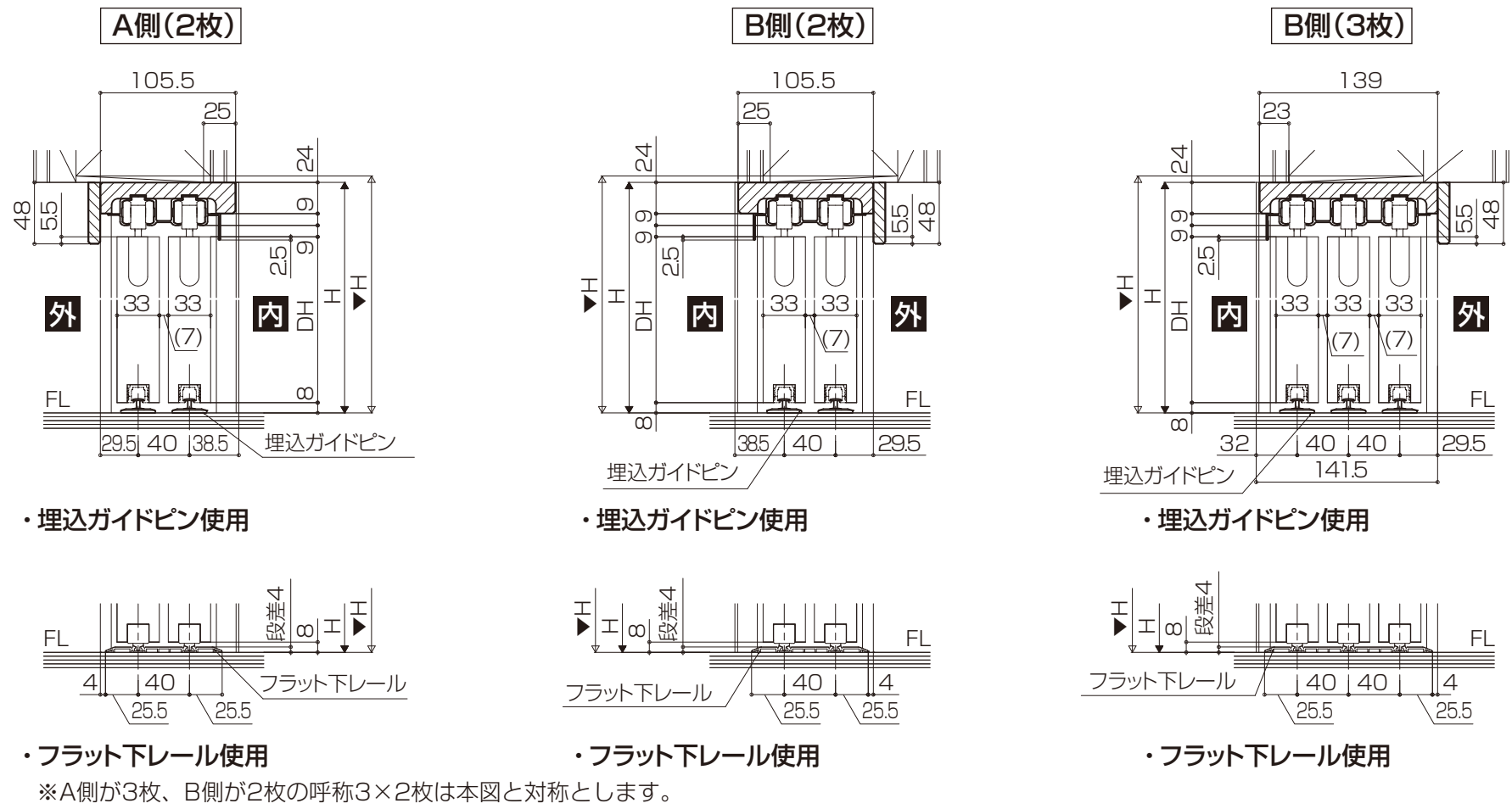
W呼称	枠外寸法(mm)		戸袋寸法(mm)	
	WA寸法	WB寸法	B1寸法	B2寸法
1×2枚	1686	2472	836	836
1×3枚	1726	3260	836	836
2×1枚	2472	1686	836	836
3×1枚	3260	1726	836	836

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体(DW816)を使用した場合の寸法です。

算出式1×2枚(2×1枚)：
 $DW1 = (WA - 54) / 2$
 $DW2 = (WB - 24) / 3$
 $A1 = WA - B1$
 $A2 = WB - B2 - 5$
 $B1 = DW + 20$
 $B2 = DW + 20$
算出式1×3枚(3×1枚)：
 $DW1 = (WA - 94) / 2$
 $DW2 = (WB + 4) / 4$
 $A1 = WA - B1$
 $A2 = WB - B2 - 5$
 $B1 = DW + 20$
 $B2 = DW + 20$

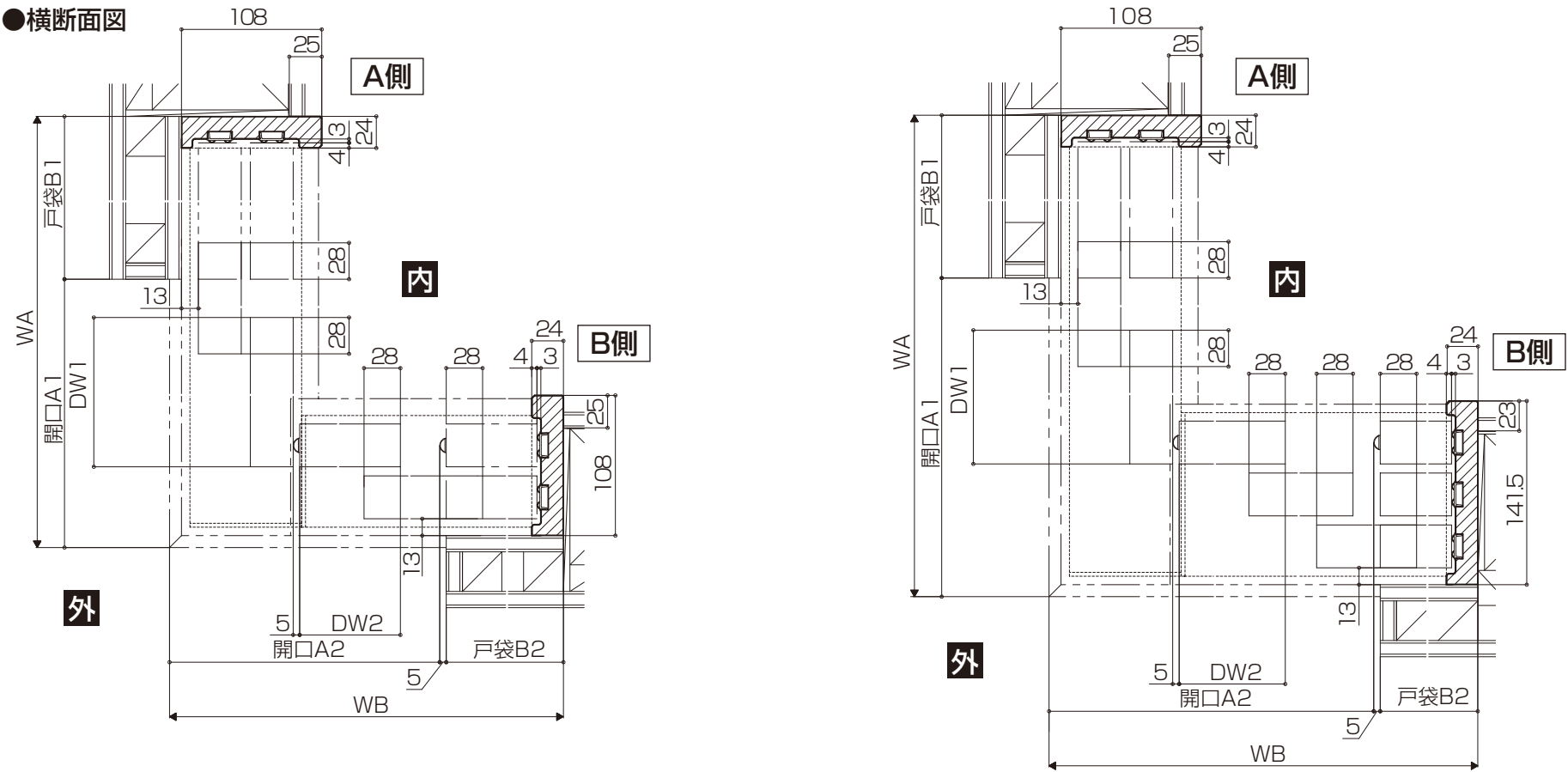
■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ 2×2枚、2×3枚(3×2枚)

●縦断面図

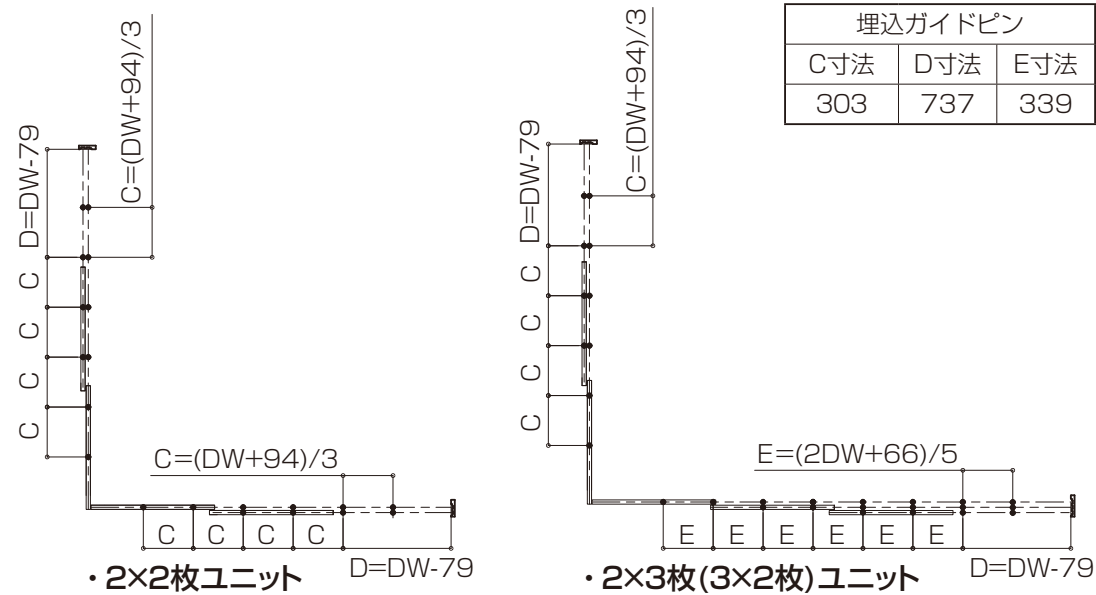


※A側が3枚、B側が2枚の呼称3×2枚は本図と対称とします。

●横断面図



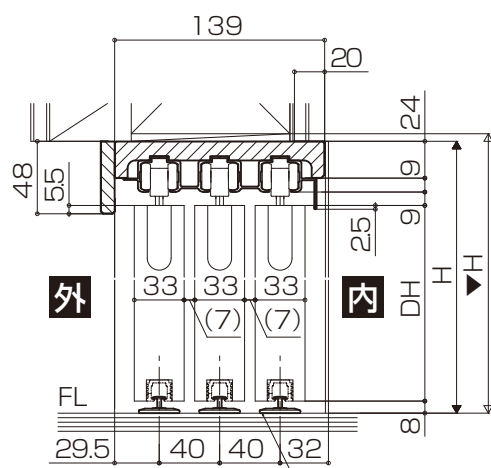
●埋め込みガイドピン配置図



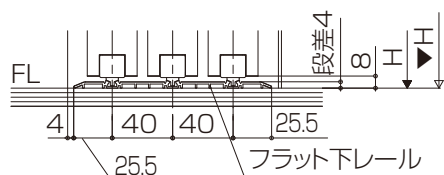
■可動間仕切り引戸上吊方式コーナータイプ 3×3枚

●縦断面図

A側(3枚)

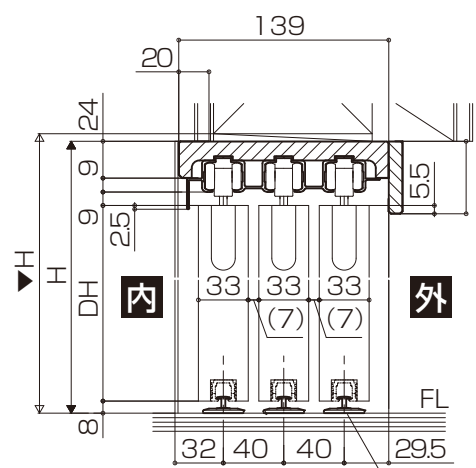


・埋込ガイドピン使用

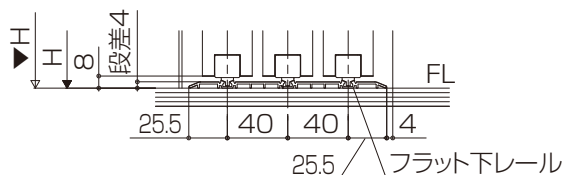


- ・フラット下レール使用

B側(3枚)

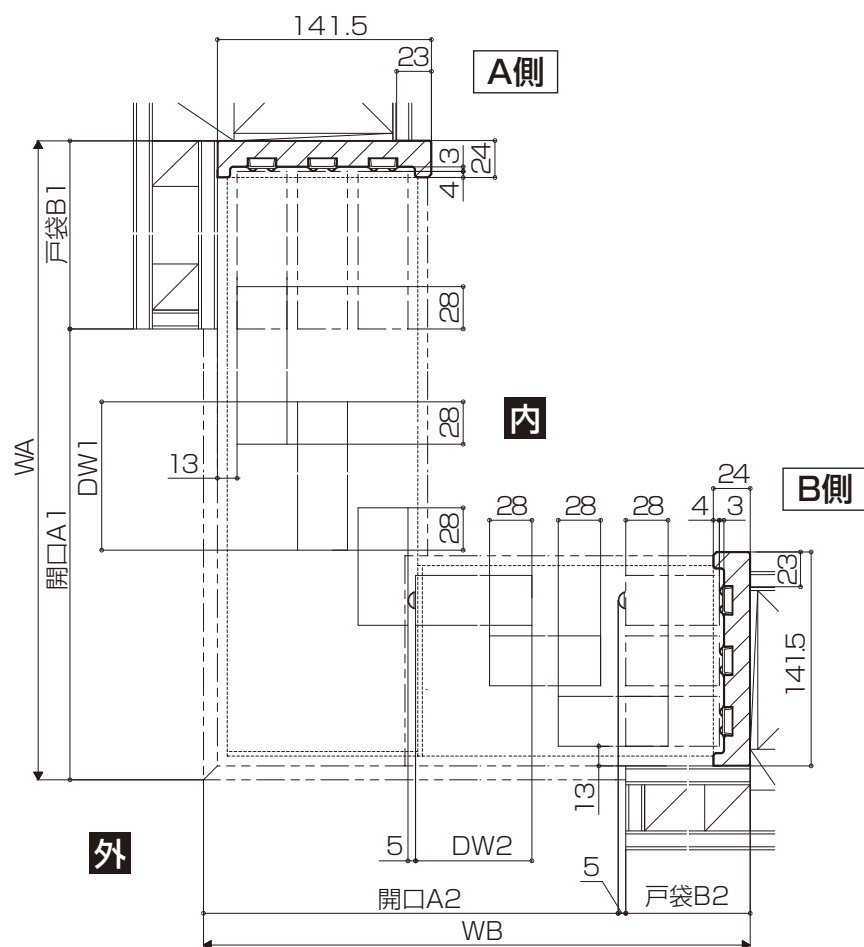


・埋込ガイドピン使用

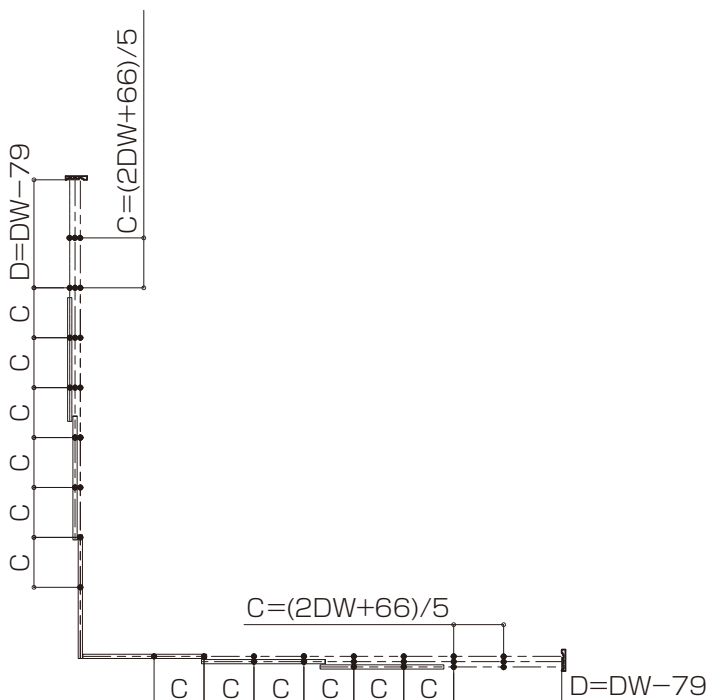


- ・フラット下レール使用

●横断面図



●埋め込みガイドピン配置図



部材名称	3枚側	
	材形番号	枠幅寸法
縦枠	7668	141.5
鴨居	7849	139
幕板	7570	48
フラットレール	7486	131

W呼称	枠外寸法(mm)		戸袋寸法(mm)	
	WA寸法	WB寸法	B1寸法	B2寸法
3×3枚	3302	3340	836	836

埋込ガイドピン	
C寸法	D寸法
339	737

※本表は、可動間仕切りユニット引戸上吊方式の規格サイズ本体(DW816)を使用した場合の寸法です。

算出式 3×3枚：

$$\begin{aligned}DW1 &= (WA - 38) / 4 \\ DW2 &= (WB - 76) / 4 \\ A1 &= WA - B1 \\ A2 &= WB - B2 - 5 \\ B1 &= DW + 20 \\ B2 &= DW + 20\end{aligned}$$